

平成 20 年 01 月 21 日

北アルプス広域連合長 牛越 徹 殿

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会

会長 宮田 温巳

## 飯森地区における「活断層・副断層の確認調査」に係る意見書

飯森地区における活断層・副断層の確認調査については、すでに支出の停止を求める監査請求を提出していますが、このこととは別に、単なる科学的視点にもとづく下記理由により、「活断層・副断層の確認調査」の停止又は延期を申し入れます。

### 記

飯森地区は、オオタカ等の猛禽類の生息・営巣が予測されるということで、広域連合は昨年生息状況調査を実施しました。この調査結果について「長野県環境保全研究所」に評価を依頼した結果、「2.月から 4 月については調査不足である」「オオタカの調査には 2 営巣期の調査が望ましい」等の回答が寄せられました。これを受けて広域連合長は、昨年 11 月の広域議会定例会挨拶において「引き続きもう 1 営巣期の調査を継続する」と述べています。

このような状況の中で、広域連合は飯森地区隣接の姫川河川敷にて活断層・副断層の確認調査を計画し、すでに入札を行なって業者の決定をしています。確認調査の具体的実施時期は不明ですが、猛禽類の生息調査を行うこれからの時期に確認調査を行なうことは、確認調査に伴う人の移動や重機による騒音等により、警戒心の強い猛禽類の行動に重大な影響を及ぼし、営巣活動の休止は勿論猛禽類を飯森地区から追い払うことになり、かつこの影響は確認調査の期間だけでなくその後も継続すると思われるので、生息状況調査を全く無意味にすることになります。

従って、監査請求にて要求した通り確認調査を是認するものではありませんが、このこととは別に単に科学的視点から判断して、猛禽類の生息状況調査が完了するまでは、活断層・副断層の確認調査を行なうべきではないと考えます。

以上